

令和5年 11月 14日

総務産業常任委員会

委員長 田村 大治郎 様

総務産業常任委委員 早川 文乃

### 総務産業常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

#### 記

#### 1. 視察期日及び視察先

令和5年10月30日（月）

広島県神石高原町 「生活交通対策について」

10月31日（火）

島根県美郷町 「有害鳥獣対策について」

#### 2. 視察参加名簿

委員長 田村 大治郎

副委員長 松岡 秀樹

委員 重廣 正美

委員 有田 茂

委員 早川 文乃

委員 西村 良一

委員 田中 千秋

以上7名

#### 3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	広島県神石高原町			
視察日時	令和5年10月30日 13:30~15:00			
視察項目	生活交通対策について			
対応部署名	総務課			
自治体概要	面積	381.98 km <sup>2</sup>	高齢化率	49.7%
	人口	8,070人		
	世帯数	3,782世帯		R5.10月データより
	神石高原町は、広島県の東部に位置し、北は庄原市、南は福山市、東は岡山県高梁市、西は府中市と接しており福山市中心部までの距離は約30km。 平成16年11月5日、4町村（油木町、神石町、豊松村、三和町）が合併して「神石高原町」が誕生した。 広域交通体系は、町の中央部からやや東側を岡山県新見市と福山市を結ぶ国道182号が縦断しており、中国自動車道東城インターチェンジ、山陽自動車道福山東インターチェンジと連絡している。広域合併前の旧町村単位に4つの地区中心地が形成されており、役場本庁・支所、公民館、スポーツ施設、保健福祉施設、医療機関、商業施設、郵便局、金融機関などが分布している。三和地区中心地に神石高原町立病院、油木地区中心地に県立油木高等学校が立地しており、それぞれ町内唯一の施設として広域的な役割を担っている。（神石高原町地域公共交通網形成計画より）			
視察内容				
広島県神石高原町の生活交通対策について				
1. まちの紹介				
特徴				
・やまなみに集落が点在し、隣の家まで遠い。				
・10戸未満の小規模、高齢化集落が多い。				
・マイカー社会。				
・電車がない。				
(三和地区中心地に神石高原町立病院、油木地区中心地に県立油木高等学校が立地しており、それぞれ町内唯一の施設として広域的な役割を担っている)				
2. 生活交通対策				
合併時				
路線バス21系統				
福祉タクシー助成事業（各種手帳保持者、75歳以上非課税者）				
→タクシーチケット48枚/年				
H18~20				
路線バス18系統				
おでかけタクシー（乗合タクシー）※前日までの予約必要				
福祉タクシー事業（おでかけタクシー利用が困難な人）				
ふれあい号（定時定路線）				
H21~26				
路線バス12系統				
町営バス2系統（町内1乗車300円）				
ふれあい号（定時定路線）26路線				
福祉タクシー（介護タクシー）60枚/年				
公共交通補完事業（タクシーチケット）48~92枚/年				
H27~28				
路線バス12系統				
町営バス2系統（路線バスとの乗り継ぎ制導入）				

ふれあい号減便（26→20→16 路線） 帰宅減便 2 → 1  
 福祉タクシー（介護タクシー） 60 枚/年  
 公共交通補完事業（タクシーチケット） 48～92 枚/年  
 ふれあい号廃止地域へのチケット交付拡充

～～課題～～

- ・乗員不足によるバス路線 3 系統撤退の申し入れ
- ・利用者の時間調整が困難
- ・バス停までの距離
- ・予約が面倒

→利用者数の減

※ **新制度移行を決定し路線型をあきらめる**

H29 路線バス 9 系統  
 町営バス 3 系統（乗り継ぎ制継続）  
ふれあいタクシー事業（新規）  
町外医療機関通院者支援事業（新規）  
運転免許証自主返納者支援事業（新規）

R 3 路線バス 3 系統  
 町営バス 2 系統（乗り継ぎ制継続）  
 ふれあいタクシー事業  
 町外医療機関通院者支援事業  
 運転免許証自主返納者支援事業

3. タクシー助成制度

町内に居住する高齢者等の交通弱者のタクシー利用に利用料金の一部を助成する制度。

**内 容**

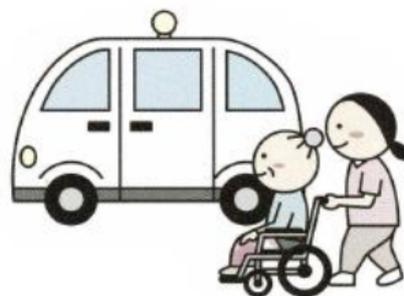
利用目的	町内であればどこでも(通院, 買い物, 食事など)行くことができます。	
利用料金	普通車	目的地まで片道最大900円で利用できます。
	9人乗り車両	目的地まで片道最大3,000円で利用できます。
利用回数	1人1か月20回まで	
利用できる事業者	町内タクシー事業者及び介護タクシー事業者の普通車～9人乗り車両, 介護車両を利用できます。	
相乗り	タクシー利用者の1人が「利用者証」を持っていれば, 相乗り同乗者も対象となります。 ※「利用者証」を持った人が先に乗車している必要があります。 ※相乗り乗車は, 目的地までの通常経路沿いでの乗車が対象です。	

## 対象となる資格要件

神石高原町内に住所を有し、次のいずれかに該当する人

- ①満75歳以上の方
- ②身体障害者手帳の交付を受けた人
- ③療育手帳の交付を受けた人
- ④精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた人
- ⑤特定疾患医療受給者証の交付を受けた人
- ⑥介護保険法に規定する要介護者及び要支援者  
(介護予防・生活支援サービス事業対象者を含む)
- ⑦満75歳未満で運転免許証を返納した人
- ⑧その他町長が認めた人

- ・運転免許証を所有していない人(18歳以上で学生を除く)
- ・原付及び自動二輪免許のみ保有している人(18歳以上で学生を除く)
- ・母子健康手帳の交付を受けている人(許可の日から出産予定日の後1年間に限る)



## 制度移行に伴う効果

- ・利便性の向上により輸送人員が増加  
ふれあい号(H28)約4,400人/年 → ふれあいタクシー(R4)23,432人/年
- ・1人当たりの輸送コスト減(効果的な財政支出)  
ふれあい号(H28)約5,600円/人 → ふれあいタクシー(R4)約2,100円/年  
\*総事業は増
- ・タクシー事業者の存続可能性の向上  
営業収益が事業者全体で約45%増加(H30)  
タクシー事業者は、小中学校7校のスクールバス(21系統)の運行事業者でもあり、事業者の存続は教育行政にも影響。  
\*H6年 働き方改革における乗務員不足問題

## 4. 今後の課題等

<タクシー助成事業>

- 1 財政面
- 2 需給バランス

<その他生活交通を取り巻く課題など>

- 1 どこまでが生活交通の領域?
- 2 バス運賃の適正化
- 3 町営バス運賃の見直し DX

## 所 感

神石高原町は、紹介にもあるように、小規模集落が点在する過疎地であり、長門市とよく似た交通課題を持っている。観光客は、町内の4つの地区中心部までバスで入り（JRなし）、そこからタクシーで各観光スポットに向かっている。

住民は、路線バス3系統と町営バス2系統（乗り継ぎ制継続）、そしてふれあいタクシー事業・町外医療機関通院者支援事業・運転免許証自主返納者支援事業を利用して町内や町外を行き来している。

長門市は、センザキッチンを起点としたバス路線や各地域内でのデマンド交通事業を行っているが、以前からタクシーチケットを利用する事業を希望する声もある。

神石高原町の取組は、ドアツードアの利用ができ、利用者の満足度や評価は非常に高い反面、国・県の補助制度の対象外であり、財政面の課題を残す。

さらにタクシー乗務員の高齢化や人手不足による稼働台数の減少も懸念される。また、サービスの拡充をどこまでするのか？住民の中には助成して当たり前という機運もあるという。

神石高原町の取組は、町内のタクシー事業者を守りながら、町民の声に柔軟に対応する制度であり、覚悟を持って国・県の補助制度の対象外の道を選ばれている。

自治体で様々な問題や優先順位等があり、財政面の状況も異なっている。条件が違えば住民へのサービスの対応も当然違ってくる。

長門市の住民の希望する交通サービスと、観光客に対しての交通サービスをどのように提供するのか？

神石高原町は費用が増加（過疎債ソフト）してもタクシー助成事業を導入に踏み切ったが、今後、長門市はデマンド事業をそのまま継続するのか？タクシーチケットの導入の検討はしていくのか？

いずれにしても市民の声（利用者の意見）や観光客の意見を聞くことが大事であり、その意見に沿った事業を行うことが必要である。

(別紙)

視察先	島根県美郷町			
視察日時	令和5年10月31日 10:00~11:30			
視察項目	有害鳥獣対策について			
対応部署名	美郷バレー課、吾郷地域婦人会(青空サロン)、雅☆ねえ			
自治体概要	面積	282.92 km <sup>2</sup>	高齢化率	47.9%
	人口	4,355人		
	世帯数	1,844世帯		R2国勢調査より
	平成16年10月1日邑智町・大和村の合併により誕生。合併前の2町村(邑智町と大和村)を江の川(ごうのかわ)が貫流し、その両岸に中国山地が織りなす四季折々の豊かな自然と美しい街並みが広がる様子は、日本の古き良きふるさとの原風景を思い起こさせる。 「美郷(みさと)」の町名には、自然豊かな美しい故郷(ふるさと)をいつまでも残しておきたいという住民の願いが込められており、「みさと」という響きが持つ温もりは、人情豊かで、住民がいきいきと暮らしているこの地域を非常によく表しており、新町の名称として決定された。 島根県内19自治体において人口10万人当たり百歳以上高齢者数の割合が1番高い長寿の町。町には高校や総合病院、ホームセンター、ドラッグストアがなく、ローカル線も2018年に廃線となっている。(美郷町HPより)			
視察内容				
美郷町の鳥獣被害対策 三者(農業者等、駆除班(猟友会)、自治体)の利害関係の相違 鳥獣対策の捕獲と狩猟の混同 “ジビエ”獣肉利活用の実態 「農」と「商」の利害がずれていた				
おおち山くじら物語 第1章(点) 獣害対策の抜本的改革 <b>猟友会依存の組織体制から、農家・住民主体の捕獲体制へ再編</b>				
第2章(線) 夏イノシシ資源利活用 <b>食肉、ペットフード、皮革、家畜飼料原材料など余すことなく活用 農家の捕獲イノシシ処分の負担軽減と資源利活用</b>				
第3章(面) 地域づくり・コミュニティビジネス <b>鳥獣と人間の戦い→過疎・人口減少の波との闘い ※依存体質による失った自立や主体性の喪失を再生</b>				
第4章 定住・雇用・ローカルビジネス <b>産・官・学・民による</b> ヒト・モノ・カネ・情報の集約と新しい取り組みやノウハウ 麻布大学フィールドワークセンター開設				
第5章 美郷バレー構想(2019年~) タイガー株式会社美郷バレー中国営業所開所				

## 吾郷地域婦人会（青空サロン）

婦人会の活動（青空サロン市場、皮革加工品の製造・販売）  
青空サロン畑（獣が寄り付きにくい畑の作り方を学ぶ農場）

### 所 感

鳥獣被害対策では、なんと言っても美郷バレー課の安田課長の御尽力の賜物であり、そこに集った雅☆ねえや婦人会の皆さんの発信力と行動力の結果であると実感した。

個人から地域、団体、自治体、企業、大学、他の自治体と影響力も協力関係も地道な結果を積み重ねての成果である。

#### 安田課長曰く、

- ・答えは現場にあり、失敗はしていない。
- ・補助金には頼らない。（国は一律に対策を考えている。）
- ・自助、共助の後の公助であり、まずは地域づくり、
- ・そして鳥獣対策は個性が必要である。その結果を地域振興に重ねる。  
ただの対策では終わらない。地域振興と過疎対策：一緒の理念で連携する
- ・対策の出口は未来を描くことである。  
夏場に守り（柵等設置・維持管理）、冬場に捕獲  
夏場の捕獲は加害獣のみ

#### 雅☆ねえ曰く、

- ・国や県は、悪いのは動物。  
動物からすれば、悪いのは人間。  
（見つけた餌は自分の物、地図はない。餌付けしない集落にする。）
- ・獣害対策が地域の起爆剤となり、元気になる。
- ・被害が出たら行政にしてもらおう集団（やる気のない住民を育てる）公助でなく、自分で被害を止める人を育てる公助を
- ・意識改革が必要「先送り・したふり・責任逃れ」  
主役は住民であり、女性が参加した地域はうまくいく。
- ・自分で自分を守る
- ・獣害対策は、井上雅央著「女性がやればずんずん進む 決定版！ 獣害対策」

以上のことから、獣害対策には、まず地域の問題として住民の意識改革（自分で自分を守る：自助）が必要であり、現場で答えを出していく。地域で協力することで地域振興にもつながる（共助）。行政は、「先送り・したふり・責任逃れ」から脱却し、自助・共助を活性化する（自分で自分を守る人の育成）に力を注ぐ（公助）。

住民だけでなく、行政も意識を変え、目線を変えると、したふりの実績報告ではない、やる気のある元気な住民がいる地域になれる実例を見せていただきました。